

▶相手を理解しようとする気持ちが大切なことをワークで体験。



外国人をサポートするために

地域に住む外国人が安心して暮らせるよう、ボランティアとしてサポートする人材を育成しようと、しまね国際センターが主催する「日本語ボランティア入門講座」が市役所防災研修棟で行われました。講座の初日となった11月28日は、フィリピン出身で市内在住の野口マリリンさんによる講演や広島市日本語教育コーディネーターの橋本優香さんによる異文化理解の講座などを実施。受講者は、外国の言語や習慣、食、時間の感覚など、日本と異なるさまざまな面を理解しながらサポートしていくことの大切さを学びました。



安高創立120年を祝う 市長日記

県立安来高校創立120周年の記念式典が11月2日、安来市総合文化ホールアルテピアで行われました。同校は、明治34年に開校した能義郡立農業学校と大正5年に開校した安来町立女子技芸学校が前身。変遷を経て、昭和24年に現在の県立安来高等学校として統合し現在に至っています。

明治から令和までの5つの時代とともに歩んできた歴史と伝統のある同校。学習とスポーツを両立して、豊かな人間性と高い教養を身につけた人材を育

たっぴん どぴっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック(FB)」で公開しています。

市内で活動する8団体が出演した市民音楽祭。きれいなハーモニーの合唱や繊細に奏でる琴やギターなどの演奏で、会場は盛り上がりしました。(11月15日：アルテピア)

今月の一枚

◀全校生徒や教職員、来賓ら約450人が参加し行われました。

成し、これまで2万4千人余りの卒業生が社会のさまざまな分野で活躍されています。

次代を担う青少年の育成にとって、学校教育の果たす役割は極めて大きなものがあります。生徒の皆さんには、高い志を持ち、これまで先輩が築き上げてこられた120年の歴史と伝統の重さをしっかりと受け止め、同校の新しい歴史をつくりあげていけることを期待します。



市長 田中武夫

は、色づいた紅葉を満喫。
▶折り返し地点の清水寺境内で



歴史ある清水参詣の古道を散策

江戸時代に、広瀬藩主の参勤交代によって整備された広瀬清水街道を歩く「安来・清水寺古道ウォーク」を11月21日に行いました。

参加した400人は感染予防対策のため時間差で出発。中海ふれあい公園から清水寺を折り返し、道の駅あらエッサまでの往復約10キロの道のりを、歴史ロマンに触れながら散策しました。

鳥取市から参加した中谷順一さんは、「古道が素晴らしく、とても歩きやすかった。山々の木立に癒されました」と話し、心地よい汗を流していました。

駐車場で映画鑑賞

コロナ禍でも安心して文化芸術に触れてもらおうと11月13日に安来市総合文化ホールアルテピアで、車に乗ったまま映画鑑賞ができるドライブインシアターを開催しました。

駐車場に大型スクリーン（縦4m×横6.9m）を設置して、プロジェクターで投影。島根県出身の錦織良成監督が山中鹿介の生きざまと堀尾吉晴の述懐を映像化した「質実剛健」などを上映しました。来場者は車のラジオから流れる音声を聞きながら、普段と違った雰囲気映画鑑賞を楽しんでいました。



▶完全プライベート空間の車内で鑑賞できました。

防災機能の強化に向けて

日本道路建設業協会中国支部から11月16日、道の駅「広瀬・富田城」に小型発電機と小型投光器を寄贈いただきました。小型発電機は、災害時に投光器の電源やスマートフォンの充電としての活用を想定。まちの防災機能の強化に向けて有効に活用していきます。

同協会の國枝永一幹事長は「地域の防災に役立つとうれしいです」と話していました。



▲右から日本道路建設業協会中国支部の國枝幹事長、田中市長、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所の藤田修事務所長。



▶西灘地区の空き家の相談などを受け付けている「安来小路暮らし相談室」が主催しました。

空き家の未来を考えるツアー

安来町^{にしなだ}西灘地区の空き家の現状を知ってもらい活用について考えようと11月8日、「西灘まちあるき&空き家見学ツアー」が同町で行われました。

市内外から集まった10人の参加者は、同町内を巡りながら空き家を見学。安来港が近い港町特有の建築様式など、中に入らないと分からない建物の様子を見て回りました。

移動中は、当地に詳しい井村和彦さんがまちの歴史を解説。参加者は、鉄生産によりこの地区が、安来の近代発展を支えたことなどを興味深そうに聞いていました。